

平山郁夫シルクロード美術館News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.30

2025年3月発行



平山郁夫 画室に残されていた制作中の作品 2009年

2009年12月に平山郁夫が逝去したあと、鎌倉、二階堂の画室には未完のシルクロード絵画が残されていました。ローマからはじまり、エジプトのナイル河畔、イスラエルのエルサレム、イラクのバグダッド、イランのテヘラン、中国の北京、そして日本の奈良へー。平山郁夫が死の直前まで描いていたシルクロードの7つの都市の風景は、未完でありながらも、平山が抱き続けたシルクロードへの情景の念、そして民族や文化の垣根を超えた世界平和への願いを映し出しています。



平山郁夫シルクロード美術館
HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM

特別企画展「平山郁夫 シルクロード変幻」

2025年3月22日(土)～9月8日(月)



平山郁夫が生涯をかけて旅し、描き続けたシルクロードの風景や遺跡、旅先で出会った人々、砂漠を旅する隊商の行列…そこに込められた平和への願い、その壮大な絵画世界を平山夫妻が収集したシルクロードの美術品を交えてご紹介します。

このたび、本展では初めての試みとして、平山郁夫の没後、画室に残されていた未完のシルクロード絵画、ローマから奈良までの7つの町を描いた作品を一挙公開いたします。亡くなる直前まで手がけていたシルクロード各地の街や、異国の風景を描いた作品は、制作途中とはいえ、シルクロードへの尽きることのない夢、そして民族や文化の垣根を越えた世界平和への願いを映し出しています。未完の筆跡から伝わる後世に託したかった平山の想いを、ぜひご鑑賞ください。

そして、昨年の開館20周年を記念して、展示室1「シルクロードの仏たち」コーナーをリニューアルいたしました。これまで以上に充実した展示空間のなかで、当館の至宝、ガンダーラ仏をはじめシルクロード各地で制作された仏像を御覧いただけます。



左:《古城(ジャイサルメル・インド)》2005年
右上:スケッチブック「玄奘三蔵への道」より 1981年
右下:画室に残されていた制作中の作品 2009年

Information

- ◆会期 2025年3月22日(土)～9月8日(月)
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観覧料 一般1200円／高・大生800円／小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円引き
- ◆主催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

◆再興110回院展記念展覧会

「同人たちの出世作といま一無窮をめざして」
2025年6月11日(水)～17日(火)／大丸心斎店
2025年7月5日(土)～7月27日(日)／松坂屋美術館
内容:平山郁夫絵画1点

◆鎌倉市東アジア文化都市事業「平山郁夫」展(仮称)

2025年9月20日(土)～30日(火)予定／鎌倉芸術館
内容:平山郁夫絵画 約50点、コレクション 約50点 予定

◆「仏教と夢」展

2025年9月20日(土)～11月24日(月)／龍谷ミュージアム
内容:コレクション6点

◆「The Anicent Glass 古代ガラスの3つの軌跡」展(巡回)

2025年4月19日(土)～6月8日(日)／新潟県立歴史博物館
2025年7月12日(土)～9月7日(日)／古代オリエント博物館
内容:コレクション28点

◆「平山郁夫」展(仮称)

2026年2月初旬頃～中旬頃 予定／日本橋三越
内容:平山郁夫絵画 約50点、コレクション 約50点 予定

※主催者の都合により会期等が変更する場合があります。
最新情報は、公式サイト等でご確認ください。

巡回展レポート

中国における当館所蔵品展について (6)

平山郁夫シルクロード美術館館長
平山東子

昨年も中国各地で当館のコレクションによる様々な展覧会が開催されました。まず3月には北京の清華大学芸術博物館で、シルクロードの陶器の展覧会「抔埴之工(土をこねる技)」展がスタートしました。清華大学によると、この展覧会はこれまでに実施してきたガラス展「火と砂」と金属展「火と金」に続くシルクロードシリーズ第三弾で、今回は「火と土」ということで、「火によるシルクロード三部作」が完結するそうです。いつものことながら中国の人たちの壮大な世界観には圧倒されるばかりです。(写真1)

続く6月には、杭州の浙江大学の芸術考古博物館で「交流與共新：亚洲文明与丝绸之路(交流と共同する革新、シルクロード沿線のアジア文明)」展がありました。開催の半年ほど前に急に連絡が来て、あまりにも唐突な話で到底引き受けられないと思いましたが、浙江大學芸術考古博物館院長の趙奉先生(杭州シルク博物館名誉館長)からの強いご要望で、中国西域の染織品をまとめて展示するという、これまでにない企画なので、特別に出品することを決めました。清華大では陶器展が始まったばかりなのに私たちの収蔵庫は再び大わらわとなり、なんとか迎えた開幕の国際シンポジウムでは、当館のコレクションの成り立ちや平山郁夫の文化財保護活動を紹介する機会もいただき、展覧会の反響も大きく、当館の存在をアピールすることができたように思います。

(写真2. 3)



左(写真2) 会場では大英博物館で1993年に開催した当館のシルクロードのコイン展の担当だった古銭学者のヘレン・ワンさんと再会しました。

右(写真3) 浙江大の展示では、当館秘蔵の唐時代の衣服や連珠文の絹織物が展示され、大いに注目を集めていました。

ちなみに、浙江省に隣接する安徽省(あんきしょう)は、中国巡回展で長年お世話になっている黄山美術社の社長、陳建中さんの故郷です。そこで本展開幕の後、陳社長たちと安徽省に寄り、社名の由来にもなった黄山を訪れることになりました。黄山といえば、古来より仙人の住む仙境と言われ、数々の漢詩や山水画の題材となった高い岩山の連なる名峰です。平山画伯も2007年にこの地を訪れ、最晩年の超大作「神峰黄山雲海図」を描いています。本当は遠くから眺めるだけで十分と思っていた黄山ですが、陳社長のご厚意で、途中まで山登りをする事になり、果てしなく続く階段をひたすら登っては降り、さらに山頂付近で一泊。参加者全員足腰ががくがくになりながら世界遺産「大黄山」の景観を堪能し、体力の限界を感じつつ上海経由で帰国しました。(写真4)

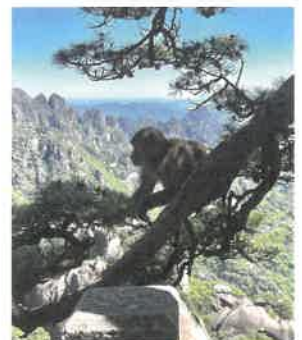
またこの時期、上海でも「化土成金(土が化けて金と成る)——世界陶磁技芸展」という

陶器の博覧会が開催され、当館所蔵のエジプトやイスラムの陶器も出品しましたが、スケジュール的に訪問は叶いませんでした。一方、8月には湖南省博物院、9月には蘭州やウルムチ(新疆ウイグル自治区)の文物局や博物館を訪ね、次回以降の巡回展に向けた打ち合わせや現地確認を行いました。あわせて、風力発電の風車が林立する天山山脈を越え、トルファンまで足を延ばし、平山画伯の作品の舞台となった火焰山や高昌故城、葡萄溝などを訪問、駆け足でシルクロードの「聖地」を巡りました。(写真5)

(写真5) 高昌故城、まさに大唐西域壁画の第3面のような風景が続きます。



(写真1) 清華大の展覧会ではシリアの人面の壺がゆるキャラのようで大人気でした。



(写真4) 絶景黄山、断崖に生えた唐松と猿。



美術館ノート

開館20周年を振り返って

昨年、当館は開館20周年を迎えました。この年を迎えるまで、私たち職員一同は、平山郁夫の日本画をはじめ、シルクロード文化の普及に努めてまいりました。皆様のご理解・ご協力をいただいたこともあり、おかげさまで全国各地をはじめ、世界からも多くの方々にご来館いただいております。今後も当館はその使命を忘れることなく、美術館活動に励んでいく所存です。引き続き、何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、当館は今年度、3つの展覧会を開催しました。

①「平山郁夫－仏教伝来と旅の軌跡」(会期:2024年3月23日～9月9日、171日間)

日本画家・平山郁夫の画業を振り返り、画家自身の転機となった《仏教伝来》(佐久市立近代美術館蔵)などの初期作品や、それらに関連する古美術コレクションを含めて約110点の展示を行いました。特に《仏教伝来》は20年ぶりとなる展示となり、開館設立時の展覧会においても出品されました。当時は平山画伯みずから手紙をしたためて佐久市長へ作品借用の要望を出すほど、画家自身も愛して止まない作品でありました。私たちはそうした思いを鑑み、またこの20周年を飾るのに相応しい作品であることは館員一同、皆一致するところでもありましたので、本展でも《仏教伝来》を中心に据え展示を行いました。この作品が長期にわたって展示が出来たのも、ひとえに佐久市立近代美術館の日比野ルミ館長をはじめ、現場学芸員である土屋 信氏・由井はる奈氏・前川知里氏などのご理解とご配慮あってのことであり、感謝の念に堪えません。館員一同、改めて感謝申し上げます。



「平山郁夫－仏教伝来と旅の軌跡」展 展示室6

②『大乙嫁語り展』

(会期:2024年9月14日～10月14日、31日間)

当館開館20周年の目玉の展覧会として、中央アジアを舞台とした人気漫画『乙嫁語り』(森薫氏)の原画展を開催しました。本展は漫画の発行元であるKADOKAWA監修のもと、同じ主催に入った共同印刷株式会社の協力を得ながら、展示やショップなどの整備を行いました。これまで当館は、平山郁夫の日本画をはじめ、数々のシルクロードに関する美術展を行ってきましたが、こうした現代のシルクロード文化とコラボすることは初めてのことであり、この初の試みに当初は不安があったものの、展覧会が開催すると漫画ファンはもちろんのこと、多くの若い世代の方たちが美術館へ詰めかけてくれました。彼らの書いてくれた来館者アンケートを見ると、当館の存在を初めて知る方が多く、改めてその世代にも広報周知していく必要さを知り、またこの展覧会を機に新たな来館者層の獲得ができたのではないかと考えております。



開館20周年記念『大乙嫁語り展』展入口

③「中央アジアの染織と文化」(会期:2024年9月14日～12月27日、105日間)

先の『大乙嫁語り展』が中央アジアを舞台にした漫画のため、当館の企画展示室においても古美術コレクションの中から「中央アジアの染織」をテーマとし、特にウズベキスタンの近世・近代の染織品を中心に展示を行いました。この種の染織展については15年ぶりの展示となり、この国の文化については平山郁夫・美知子夫妻も愛して止まず、二人の初めてのシルクロードの取材についてもこの国を含む「中央アジア」でありました。本展では、ウズベキスタンの染織品だけでなく、そうした二人のスケッチや手記をはじめ、平山画伯の素描や下図なども合わせて展示し、当館ならではの展示となりました。今回は②の漫画展とコラボしたこともあり、若年層の方が漫画のみならず、実在のシルクロード文化に触れられる機会を提供でき、またこれまでに来館して下さった方々には今までにない充実した中央アジアの染織展となったのではないのでしょうか。本展はまさに展覧会のタイトル通りの「中央アジアの染織と文化」展に相応しい内容であったかと思います。

(学芸室長 大塚裕一)



「中央アジアの染織と文化」展 展示室2

文化庁による文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)を活用し、様々な事業に取り組みながら館の磨き上げを続けています。今年は開館から20年の節目ということで、補助金を活用し2つのイベントを開催しました。

1. 平山郁夫 生誕日記念イベント「トーク&コンサート」

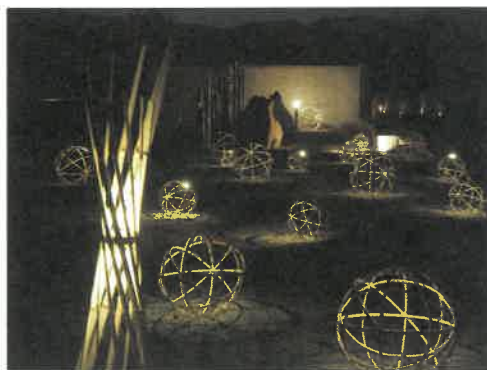
平山郁夫の生誕日にあたる6月15日には、開館20周年の記念イベントを開催しました。前半には、当館理事長平山廉(平山郁夫長男、古生物学者、早稲田大学教授)と井上隆史氏(NHK「新シルクロードシリーズ」ディレクター)が、在りし日の平山郁夫について語り、後半には、中国甘肅省(蘭州)出身、北杜市在住のヴァイオリニスト劉薇(リュウウエイ)さんが、シルクロードへの想いを奏でるコンサートを開催しました。



2. らくだ公園ライトアップ企画「竹灯の小径」

甲斐小泉駅前に位置するらくだ公園で、山梨県身延町在住のソーシャルアクティビストである竹王子さんにご協力いただき、当館にとっても初めてとなるライトアップ企画を開催しました。この竹灯は、山梨県内の放置竹林から切り出された竹の端材を使っており、自然との共生と持続可能な未来を目指したもので、JR小海線を走る列車内からも楽しんでいただければ、日が落ちる前の夕暮れ時には南アルプスの稜線を背景に、また公園内にある陶器のらくだとのコラボレーションも魅力の一つとして楽しんで頂けました。

(管理室長 松山光)



美術館スタッフ研修旅行

秋晴れのさわやかな11月6日(水)、館内スタッフで日帰り研修旅行を開催しました。今回は22名のスタッフが参加し、行き先は静岡県の浜松方面でした。当日は早朝から館に集合し、大型バスに乗って目的地へ向かいました。車内ではこれから行く施設などの事前学習をしながら、皆の気持ちが高まった頃、最初の目的地である「浜名梱包輸送シルクロードミュージアム」に到着。当館と同じシルクロードと名の付く施設ですが、建物は古民家を改築した日本家屋。その屋内にガンダーラ仏をはじめとした様々なシルクロードの美術品が展示され、その内容は当館と関連するものも多く、参加者一同、目を見張りました。また当館学芸部の前田たつひこからも解説があり、普段の美術館とは異なる雰囲気の中、皆でシルクロード文化を学ぶことができました。その後は場所を移動し、昼食へ。秋を感じる松茸などをいただきながら、新たに入ったスタッフとも交流し、楽しい一時を過ごしました。午後からは「浜松市秋野不矩美術館」に向かい、ここは平山郁夫と同じ日本画家の美術館で、館内では鈴木英司館長に解説をいただきながら、秋野不矩作品を鑑賞しました。女性画家が描くしなやかな筆致の中にも生命力や力強さを感じる作品が多く、その色使いもどこか平山と共通するところもあり、大変学びのある見学会となりました。

(いくみ会 会長 青木房江)

浜名梱包輸送シルクロードミュージアムにて



平山美知子名誉館長来館



11月8日(金)、当館の名誉館長である平山美知子が来館しました。2020年から約4年ぶりの来館となりました。当日は館内の見学のあと、来館を記念して、理事長、館長をはじめ、スタッフやボランティアの方々とともに写真撮影を行いました。

ミュージアムグッズ紹介

シルクロードを旅するキャラバン隊が連なるオリジナルマスキングテープができました。茶色と金色の2種類です。平山郁夫が描いた悠久の風景を感じていただけたらと思います。

手帳やラッピング、小物のデコレーションにもおすすめです。当館のホームページのオンラインショップから購入できます。

【旅するキャラバン マスキングテープ(金)、(茶)】

サイズ:幅15mm×7m



イベント報告 2024年3月～2024年12月

○コンサート・ワークショップ



北杜高校ギター部
(令和6年能登半島地震チャリティ
企画)ギャラリーコンサート
●開催日:3月24日(日)
●演奏者:北杜高校ギター部
●参加者:約200名(2部制)



劉薇 ヴァイオリンコンサート
(開館20周年 平山郁夫
生誕日記念イベント)
●開催日:6月15日(土)
●演奏者:劉薇
●参加者:約100名



化石発掘体験2024
●開催日:7月6日(土)～8月11日(日)
計18日間
●講師:平山廉、鶴野光、久保泰、
久保麦野、仲谷英夫
●参加者:1,956名



恐竜ジオラマ作り体験
ー白亜紀にタイムスリッパー
●開催日:7月25日(木)、26日(金)、
27日(土) 計3日間、各日3回開催
●講師:宮沢叔恵
●参加者:65名



恐竜全身復元模型製作
●開催日:8月3日(土)
●講師:徳川広和
●参加者:10名



ティラノサウルス頭部
復元模型製作
●開催日:8月4日(日) 2回開催
●講師:徳川広和
●参加者:20名



恐竜ワイヤーアート作り体験
●開催日:8月8日(木) 3回開催
●講師:松田広昭
●参加者:15名



復元画ワークショップ
●開催日:8月17日(土)、18日(日)
計2日間
●講師:小田隆
●参加者:20名

○講演会



記念トーク「平山郁夫を語る」
(開館20周年 平山郁夫生誕日
記念イベント)
●開催日:6月15日(土)
●講師:平山廉、井上隆史
●参加者:約100名



特別講演会「中央アジアのキ
リスト教会とワイン工房」
●開催日:10月26日(土)
●講師:山内和也
●参加者:約50名

○スクールプログラム

- 4月19日 北杜市立甲陵中学校 1年生44名(展覧会見学)
- 6月4日 長野県飯田OIDE長姫高校 41名
- 5月31日 北杜市立長坂小学校 3年生59名
- 6月23日 東京外国語大学ペルシア語専攻 29名
- 7月17日 山梨県立産業技術短期大学校
観光ビジネス科1年生11名
- 10月23日 北杜市立高根中学校 1年生63名
- 10月9日 桐朋女子高等学校 1年生18名
- 10月12日 桐朋女子高等学校 1年生8名

○第15回絵手紙コンテスト受賞者発表

●最優秀賞(総部門)



入戸野終里(中学生)
らくだに集まった人の様子が
きちんと描けています。

●優秀賞(幼児部門)



デヴォア カミーラ
言葉の意味がよく出
ています。

●優秀賞(小学生部門)



柳本直音
きちんと描けています。

●優秀賞(大人部門)



納正彦
平山の絵が大変よ
く描けています



海部朱美
蓮の花がよく描けていて、
世界平和を願う気持ちがよ
く出ていると思います。

2025年上期 開館カレンダー

4 April						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5 May						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7 July						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8 August						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

3/22～9/8 「平山郁夫 シルクロード変幻」展

9/13～12/7 「シルクロードの美仏たち」展

※9/9～9/12は展示替えのため休館

7/12～8/31 「化石になったワニ」展

7/5～8/11 「化石発掘体験2025」

4/26～10/26 「カフェキャラバンサライ」営業

(土、日、祝日のみ営業)

カフェ営業日

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

◆会費 個人会員…… 10,000円

家族会員…… 15,000円

法人会員…… 100,000円

◆受付時間 随時受付(毎年7月に更新。12～3月にご入会の方は初年度の

年会費は半額、4～6月にご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所

定の銀行口座に会費をお振込み下さい。申込用紙ご希望の方は、

美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求下さい

お知らせ

次回の展覧会案内

「シルクロードの美仏たち」展
展示期間:9月13日(土)～12月7日(日)



弥勒菩薩交脚坐像 2-3世紀 片岩



平山郁夫シルクロード美術館
HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM



平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第30号 2025年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <https://www.silkroad-museum.jp/>